

## ◆ INQUA 2015 名古屋大会通信 (2)

国際第四紀学連合第 19 回大会組織委員会

国際第四紀学連合第 19 回大会 (2015 INQUA Congress - Nagoya) の開催まで 2 年になりました。前回の報告以降、INQUA 執行部とのやりとりを経て、おおよそのスケジュール等が決まりましたので、その後の進捗と合わせて報告致します。

**1. 大会の概要**

国際第四紀学連合第 19 回大会 (2015 INQUA Congress - Nagoya) は、下記の内容で開催します。

- ・期 日：2015 年 7 月 27 日 (月) ～ 8 月 2 日 (日)
- ・会 場：名古屋国際会議場 <http://www.nagoya-congress-center.jp>
- ・テーマ：Quaternary Perspectives on Climate Change, Natural Hazards, and Civilization  
「第四紀学からみた気候変動、自然災害と文明」
- ・主要サブテーマ：
  1. Quaternary science for natural risk mitigation
  2. Understanding and quantifying past changes in the Earth to improve projections of future climate, sea-level, and environmental changes
  3. Dynamics of the human and nature interaction
  4. Developing and integrating new technologies for Quaternary chronology and stratigraphy.
- ・巡 検：前回のベルン大会では 1 日巡検が 23 コース、合計で大会参加者の約 3 分の 1 近い 600 ～ 650 名が参加しました。すべて満席であったことを考えると、1 日巡検の希望者は更に多かったことが予想されます。これを受けて名古屋大会でも、現在、プレとポスト巡検で 16 コース、1 日巡検 10 コースを準備中です。1 日巡検については、大会の直前・直後の 1 日と中日の 1 日を有効に使って、できるだけ多くの巡検を用意したいと思っています。地質、地理、考古、動物・植物、化石、遺跡、博物館、等々、まだ追加の巡検を受け付けていますので、中部・近畿圏で紹介したい地域・地点がありましたら、至急事務局までご一報ください。

**2. 科学セッションと INQUA の委員会**

INQUA 大会では 100 弱のセッションが設けられ、その多くが INQUA の委員会に関係しています。INQUA には下記の 5 つの委員会があり (<http://www.inqua.org/commissions.html>)、INQUA の大会と大会の間の 4 年間は、各委員会の International Focus Groups や Commission Projects による活動が行われています。個々の活動については、上記のウェブページをご覧ください。

1. CMP: Coastal and Marine Processes 「沿岸・海洋プロセス研究委員会」
2. PALCOMM: Palaeoclimate 「古気候研究委員会」
3. HaBCom: Humans and the Biosphere 「人類・生物圏研究委員会」
4. SACCOM: Stratigraphy and Chronology 「層序・年代学研究委員会」
5. TERPRO: Terrestrial Processes, Deposits and History 「陸域のプロセス・堆積物・地史研究委員会」

セッションの募集は、これら 5 つの委員会と組織委員会を通じて行われます。2013 年末に募集があり、2014 年 1 月末に各委員会でのとりまとめ、2014 年 2 月末～3 月に開催される INQUA の執行委員会で、セッション全体のとりまとめが行われます。名古屋大会の国際科学委員会の委員長は Alan Chivas 前 INQUA 会長、委員は上記の 5 つの委員会の委員長と組織委員会から科学プログラム委員会の小野 昭、横山祐典、正副委員長と若干名です。「第四紀」を幅広く捉えて頂き、国内外の関連する分野の方々と、できるだけ多くのセッション提案をして頂けますようお願い致します。セッション受付の窓口は、上記の 5 つの委員会と日本の組織委員会になります。

**3. 日本学術会議との共同主催と関連学協会との共催等**

日本学術会議の平成 27 年度 (2015) 共同主催の申請を 2012 年 11 月に行い、書類審査、ヒアリング後、2013 年 3 月に平成 27 年度共同主催国際会議候補として決定したとの連絡を頂きました。現在最終的な書類一式を 5 月に提出し終えたところです。

INQUA に対応する日本における組織は、1950 年 11 月 17 日に日本学術会議の地質学研究連絡委員会に第四紀小委員会の設置が認められてからになります。翌年の 1951 年 12 月号の地質学雑誌の裏表紙裏に「地質学研究連絡委員会第四紀小委員会の結成」として以下のように広告し、第四紀に関係する幅広い分野からの参加を募っています。「当分地質学者が中心となるが、地理学・地形学・気候学・気象学・海洋学・陸水学・地球物理学・地球化学・生物学・生物地理学・火山学・人類学・考古学等各方面の人達の参加も望んでいる」。1952 年に正式に小委員会が発足しますが、それから 60 年余を経て、INQUA の大会が日本で開催されることになります。小委員会は、その後日本第四紀学会の設立と第四紀研連へと発展してゆきますが、今回の INQUA 大会は、上記の広告にあるように、国内の第四紀に関係する幅広い分野の研究者が、国内や海外の研究者と交流する、またその成果を発信する又とない機会です。日本学術会議の INQUA 分科会と日本第四紀学会は会議の母体であると共に、そのお世話をする任にあります。このため、関連する学協会にセッション等での共催をお願いしており、これまでに 30 を超える学協会から共催・

後援などの回答を頂いています。共催や後援、協賛して頂ける関連する学協会や団体、機関がありましたら、事務局までご連絡頂けますようお願い致します。皆様の積極的な参加をお願い致します。

#### 4. 募金活動

2012年11月に日本政府観光局（JNTO）に、INQUA大会への寄附が「寄附の形態をとり非課税扱い」になるように申請を行い、12月に採択になりました。これにより、INQUA大会への寄附が、JNTOを経由することになりますが、非課税扱いになります。

この寄附形式を用いて、2013年4月から企業、団体等に依頼を始めています。ご協力頂ける企業、団体などをご存知でしたら、事務局までご連絡頂けますようお願い致します。また、個人、会員の皆様にも、募金のお願いを今後行う予定ですので、ご協力頂けますようお願い致します。

#### 5. 組織委員会の新委員会

IGBP-PAGESや国際対応に関する委員会を設置することにしました。

PAGES・国際対応委員会 横山祐典委員長

#### 6. ホームページの開設

INQUA名古屋大会のホームページが開設されました。URLは以下の通りです。これから、逐次充実させてゆきたいと思っておりますので、ご意見などありましたら、事務局までお願い致します。

<http://inqua2015.jp>

INQUA執行部からは、facebookやTwitterの開設の要望が届いています。登録開始までには、対応する予定です。

#### 7. 今後の予定

名古屋大会に向けてのスケジュールの概要は以下の通りです。

2013年11～12月：セッション募集開始（各委員会及び組織委員会経由）

2014年1月末頃：セッション締め切り

2014年2～3月上旬：INQUA執行委員会までにセッション案を確定、基調講演案をINQUA執行委員会で検討

2014年3～4月：必要に応じて追加セッション募集

2014年5～6月：最終セッション確定

2014年7月：登録、発表、巡検申し込み開始

2014年8月：日本第四紀学会大会（東大柏キャンパス）

2014年12月10日：参加助成締め切り

2014年12月末：口頭発表申し込み締め切り

2015年2月上旬：口頭発表受理通知

2015年2月28日：早期参加登録締切

2015年3～4月：口頭発表プログラム作成

2015年4月30日（見込）：ポスター発表アブストラクト締切

2015年5月末（見込）：ポスター発表受理通知

2015年7月27日～8月2日：2015 INQUA名古屋大会

#### 8. 連絡先

2015 INQUA大会に向けて、ご質問、ご意見などありましたら、事務局まで連絡して頂けますようお願い致します。事務局（2015inqua-sec-ml(at)aist.go.jp）

### ◆第四紀小委員会、第四紀研究連絡委員会の資料を探しています

産業技術総合研究所 斎藤文紀

名古屋国際会議場で2015年の夏に国際第四紀学連合（INQUA）の大会が初めて日本で開催するのに際し、日本におけるINQUA対応の歴史に関する資料を探しています。日本学術会議の地質学研究連絡委員会に1950年11月17日に第四紀小委員会が設けられました。更に日本学術会議第5期において、1960年1月に第四紀研究連絡委員会が新設されます。それ以降、INQUA対応の委員会が継続して存続しており、現在は、日本学術会議の国際対応分科会のINQUA分科会がその任を担っています。1956年の日本第四紀学会の設立に際し、第四紀小委員会は矢部長克委員長の下、15名の委員からなる新生の小委員会となります。この時のメンバー構成に関する資料を探しています。また第四紀研究連絡委員会が設置されて以降、第6期（1963-1966）の研連委員構成に関する資料も探しています。多田文男委員長、宮地伝三郎（会員）、渡辺 光（会員）、以上の3名が委員であったことは分かっていますが他の委員構成がわかりません。以上の情報をお持ちの方は、第19回第四紀国際第四紀学連合大会組織委員会までご一報頂けると幸いです。

連絡先：〒305-8567 つくば市東1-1-1 中央第7

産業技術総合研究所 地質情報研究部門 斎藤文紀

メール：yoshiki.saito(at)aist.go.jp